

第1回委員会で出た意見について

海の展示について

(事務局)

- ・ハクセイの常設展示は、開館当時専門業者に依頼してレイアウトしてもらったもの。26年が経過して、内容自体はすぐに変えられないかもしれないが展示の方法を変えていく必要があるかもしれない。

(委員)

- ・ハクセイのみでは魚たちの生きている姿を感じられないので、実際に動いている映像を見られるようにするとよい(例:QRコードなど)。
- ・境港の海や魚に関する展示スペースがない。
- ・海や海洋生物のことをよく知っている人が見ると非常に違和感が強い(浅いところにいる魚が下の方に展示されているなど)。
- ・深さや生息地などでレイアウトを考え、海を表現する展示にしてほしい。
- ・展示のコンセプトがはっきり見えてこない。ただ色々なハクセイがたくさん並べられているという印象を受ける。
- ・2階の額に入ったハクセイは子どもも大人もよく見ず通過してしまう。

くらしの展示について

(事務局)

- ・平成24年ごろに2階にあった民具の展示をやめ、必要な時のみ収蔵庫から出して見せる形をとるようになった。現在のスペースでは、「海」「くらし」の2つのテーマを両立して充実させることは難しい。
- ・「松江市美保関歴史・生活体験資料館」(中学校跡地を利用)のように、旧誠道小学校をくらしの展示に使うこともひとつのあり方と考えている。

(委員)

- ・小学3年生の「昔のくらし」に関する学習の際、当館に対象の用具が少ないため、山陰歴史館(米子市)に行き学習を行っている。充実すれば地元の小学生の利用が増えることが期待できる。
- ・収蔵庫のものを系統立てて集めると部分的にしかなく、くらしのことを常設展示で表現するのは今の状態では難しい。
- ・展示のテーマを「漁業に関するくらし」「海に関するくらし」にしてはどうか。「香美町立ジオパークと海の文化館」が参考になる。

にぎわい作りについて

(委員)

- ・展示は変わり映えがないので、1度見て満足してしまう。
- ・観光客のリピーター確保は難しい。県外や市外から「誰かを連れて展示をもう1度見に来よう」とはならない。
- ・リピーターの市民が加わることで「協働のまちづくり」にもつながる。市民にもっと来てもらう工夫が必要（例：市民は入館料を無料にして、イベントなど必要な時のみ徴収する）。

他機関との連携について

(委員)

- ・関係施設との連携

海：水産試験場、水産振興協会

くらし：地域おこし協力隊、農業公社、県立博物館

その他：境港市観光協会、市民活動団体（当館利用団体）、学校、図書館

- ・最近新型コロナウイルスの影響で、教育旅行は近場という傾向がある。県東部・中部の学生を誘致できないか（旅行会社との連携が必要）。
- ・施設間の連携のみならず、市内のイベント（例：桜まつり）や年間行事と関連させた企画を行う。
- ・学校や図書館との連携（例：総合技術高校の学生とイベントを企画・運営、夏休みの時期に図書館と連携して自由研究と絡めた企画を行うなど）
- ・新しくできる市場（令和4年完成予定）に、魚や漁業に関する展示スペースをつくる。当館とも連携させたい。

建物の改修について

(事務局)

- ・当館は展示のテーマやにぎわいづくりなどの課題のほか、授乳室や会議室等に使える部屋がないことなど、スペースについての課題も抱えている。住宅地に囲まれているため、増築も難しい。
- ・第2展示室の上部は、設計上床を敷いて利用できる（建築基準法をクリア）。将来的には床を敷いて使うことも可能。

(委員)

- ・「くらし」の展示のことも言えるが、スペースが足りていないというのは大きな問題。増床すれば今よりできることが増える。
- ・階段の手すりや授乳室がない。誰でも楽しめる施設であるか、今一度見直す必要がある。